有限会社　田島製作所

エコアクション 21

環境経営活動レポート

2021 年１月～１２月の活動報告

2022 年 3 月 30 日

有限会社　田島製作所は、山形県を代表する蔵王連峰の麓、上山市新北浦工業団地に位置し、金属プレス、金型設計・製作及び金属プレス部品の加工・製作を行っています。

自然環境に恵まれた当地への本社・工場移転に際しては、「省エネルギー計画書」の審査を経た建造物を構築いたしました。又、設備及び材料においても可能な限り環境負荷の少ないものを使用するように配慮しています。

日増しに地球環境の悪化が伝えられる中、　次世代のためにも持続可能な環境作りを今後とも続けていきたいと思います。

Ⅰ．組織の概要

①事業所名　：　有限会社　田島製作所
②代表者　　：　代表取締役　田島　誠一
③所在地　　：　〒990-3100　山形県上山市新北浦 2-2
④TEL　　：　023-672-1455
⑤FAX　　：　023-672-1450
⑥E－mail　：　tjm@pressya.com
⑦事業の概要：金属プレス、金型設計・製作及び金属プレス部品の加工・製作
⑧売上高　　：　2021 年売上高　449,414 千円
⑨敷地面積　：　3,960 ㎡　　延べ床面積　：　2,970 ㎡
⑩従業員数　：　42 人
⑪環境管理責任者　：　海谷　和徳
⑫取組の対象範囲　：　全組織　全活動

Ⅱ．環境方針

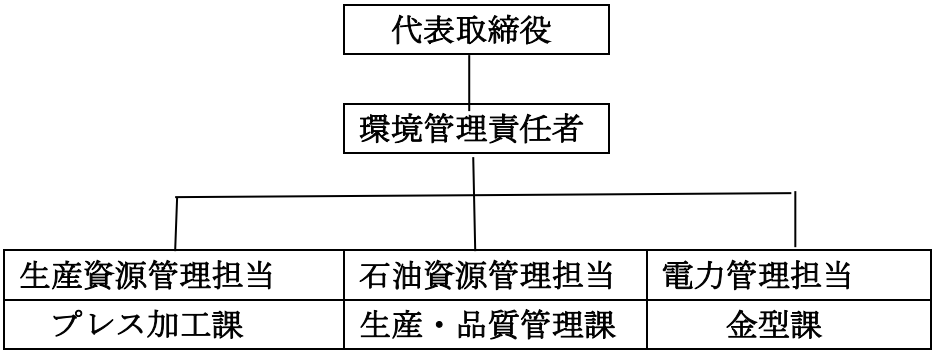
環境経営方針

田島製作所は、地球に存在する企業であることを自覚し、省エネ、省資源を意識した生産活動の中で資源の有効活用と環境汚染の予防に取り組むことで高い「環境品質」と「顧客満足の向上」を図り、継続的改善を行うことにより持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

1. 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び総排水量の削減を継続的に実施し、汚染の予防に努めます。
2. 環境関連の法規制を遵守し、環境保全に努めます。
3. 環境保全の目的・目標を定め、さらなる向上に努めます。
4. この環境経営方針を全従業員に周知徹底し、環境意識向上に努めながら生産活動を行うことで社会に貢献します。
5. この環境経営方針を広く内外に公開し、取り組み経過等を環境活動レポートで適宜公表します。

2020 年 1 月 1 日（2022 年 3 月 30 日　改訂）
有限会社　田島製作所
環境管理責任者　田島　誠一

Ⅲ.実施体制



※それぞれの担当課よりリーダーを選出し、実務での指揮取ってもらう

Ⅳ．環境経営目標

① 中長期環境経営目標

活動項目	基準年実績	2018～2023 年度目標
二酸化炭素排出量の削減	244,741Kg-CO2	基準年（2019）比 1%維持
総排水量の削減	489m3	基準年（2019）比 1%維持
廃棄物排出量の削減	11,562Kg	基準年（2017）比 1%維持
化学物質使用量の削減	224Kg	基準年（2017）比 1%維持
スクラップ（歩留率）	30.11%	基準年（2017）比 1%維持

② 単年度（2021 年度）環境経営目標

活動項目	目標値
二酸化炭素排出量	242,293Kg-CO2（基準年比 1%維持）
総排水量	484m3（基準年比 1%維持）
廃棄物排出量	11,446Kg（基準年比 1%維持）
化学物質使用量	222Kg（基準年比 1%維持）
スクラップ（歩留率）	29.80%（基準年比 1%維持）

③ 単年度（2022 年度）環境経営目標

活動項目	目標値
二酸化炭素排出量	242,293Kg-CO2（基準年比 1%維持）
廃棄物排出量	484m3（基準年比 1%維持）
廃棄物排出量	11,446Kg（基準年比 1%維持）
化学物質使用量	222Kg（基準年比 1%維持）
スクラップ（歩留率）	29.80%（基準年比 1%維持）

Ⅴ．環境経営計画

活動項目	責任者	取組内容	取組時期
電力使用量の削減	奈良崎雅弘	・夜間・週末のブレーカー遮断 ・機械エアーフィルターの掃除 ・LED へ交換 ・コンプレッサーのフィルター管理	年間
灯油使用量の削減	船山晴美	・ボイラー用灯油使用量調査	年間
車両燃料使用の削減	船山春美	・エコドライブ教育の実施 ・燃費のチェックと管理	年間
水道使用量の削減	船山春美	・散水の禁止 ・センサー式自動水洗の流量を絞る	年間
廃棄物排出量の削減	鈴木　篤	・材料搬入用木製パレットの返却再利用 ・加工油の減量化及び再利用 ・脱脂剤の長期利用の検討	年間
スクラップ（歩留率）の削減	鈴木　篤	・不良製品の削減 ・端材等の利用を検討する	年間

Ⅵ．環境経営計画の取組結果と評価、次年度の取組内容

活動項目	目標	実績	評価
電力使用量の削減（KW/h）	332,715	319,893	・売り上げの減少が顕著にみられる。コロナによる影響は計り知れない。
灯油使用量の削減（L）	9,470	10,677	・脱脂作業の要求が増えている。ロット数は減っているが、工数が増えている。
車両燃料使用の削減（L）	12,229	9,116	・コロナの影響により、お客様へ出向く機会が減った結果と思われる
廃棄物排出量の削減（Kg）	11,446	7,475	・売り上げの減少から、仕入れ材の量がかなり減った結果と思われる。
総排水量の削減　（m3）	484	583	・水漏れは発生していない。脱脂作業の増加が要因と思われる。
スクラップ（歩留率）（%）	29.81	38.31	・客先への不良数は減ったが、社内でのスクラップにしている量は減ってい

			ない。
二酸化炭素排出量の削減　　（Kg-CO2） （電力、灯油、車両燃料の使用合計で換算）	260,020	**175,423**	・売り上げの減少がそのまま CO2 の削減につながっている。

＊購入電力の排出係数は、2021 年度ウエスト電力０．４０７を使用しています。

太陽光発電による売電実績

太陽光発電実績	20 年 01 月	20 年 2 月	20 年 03 月	20 年 04 月	20 年 05 月	20 年 06 月
売電実績ｋｗｈ	27	4,822	8,813	9,364	9,179	9,544
	20 年 07 月	20 年 08 月	20 年 09 月	20 年 10 月	20 年 11 月	20 年 12 月
売電実績ｋｗｈ	10,441	8,759	8,152	6,354	4,123	1,467
合計					81,045	ｋｗｈ
合計金額					1,853,308	円

太陽光発電により、CO2 の削減につながればと思い、導入しましたが、環境負荷の管理表には、2017 年度版のガイドラインでも対象にはなりませんでした。リース代とトントンなのがせめてもの救いです。また、毎年生産量と生産額の変化が大きいために、エコアクション活動の成果が見えない。
昨年より指標にした一番大切な CO2 排出量を売上で割ってみた数値は下記の通りである。

	売上（万円）	CO2 排出量	CO2/売上
2018 年	507,417	257,249	0.51
2019 年	471,443	188,565	0.40
2020 年	529,779	182,924	0.35
2021 年	449,414	175,423	0.39

コロナに打ちのめされた一年だった。CO2/売上の係数を見ると、損益分岐があるような気がする。
　半導体の不足、物流の停滞、材料費の上昇など、環境を考える余裕が無くなっっている。

◎環境負荷の推移

環境負荷項目	２０１９年度	２０２０年度	２０２１年度
二酸化炭素排出量（Kg-CO2）	188,565	182,924	175,423
廃棄物排出量（Kg）	12,698	8,240	7,475
総排水量（m3）	489	519	583

◎次年度の取り組み内容

、具体的な 2022 年度の環境経営計画は 2021 年度と同じです。

Ⅶ．環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

２０２２年３月３０日　海谷環境管理責任者がチェック表に基づき遵守状況をチェックして問題がないことを確認しました。当社は、農村地帯に立地する事業所として今後とも排出水の水管理、浄化対策を徹底して行い、地域に決して迷惑をかけないように努力いたします。よって当社は、環境法規等の違反、訴訟はありません。尚、関係当局よりの違反等の指摘は、過去３年間ありません。

◎当社に該当する主な環境関連法規

廃棄物の処理及び清掃に関する法律	浄化槽法
騒音規制法	振動規制法
化学物質排出把握促進法	消防法

Ⅷ．代表者による全体評価と見直しの結果

見直し会議実施日：２０２２年１月１２日（火）

会議参加者：田島社長、海谷環境管理責任者、事務局田島拓弥　環境リーダー３名

・報告事項

③ 環境目標達成状況　　②環境活動計画の実施運用結果

③環境関連法規等の遵守状況　　④苦情・要望の有無

・社長からの評価コメントと指示事項

① コロナの影響が一年では収まらいようだ。色々と気を使いながらの活動になるが手を抜かずしっかりとやり抜きましょう

② 新たに、自家消費用の太陽光パネル設置した。電気料金が下がることと、CO２の排出量が下がることを期待している。